

2月6日 高梁市役所(松原通) 青少年健全育成基金・寄付



寄付金を手渡す中村浩巳・中村建設代表取締役

青少年の健全育成に役立ててほしいと、中村建設が100万円を市に寄付しました。

この寄付は、昭和63年から毎年続いており、今回で総額4900万円。市は青少年健全育成基金として積み立てており、青少年の健全育成に貢献している団体や個人への表彰事業に役立てています。なお、これまでに96団体、8個人が表彰されています。

2月6日 高梁市役所(松原通) 地域の見守り活動に協力



市内4金融機関と協定を結ぶ

通常業務の中で高齢者や子どもの見守り活動や公共施設などに異常があった場合に市および関係機関へ連絡する「地域見守り活動に関する協定」を、びほく農業協同組合、備北信用金庫、中国銀行高梁支店、トマト銀行高梁支店と締結しました。

これからも市民の誰もが安心して暮らすことができる地域社会を目指します。

1月20日 神原スポーツ公園(松原町) 応援に感謝して



選手からミニサッカーゲームの賞品をもらう

吉備国際大学シャルム岡山高梁「シャルムファン感謝祭&4年生卒業試合」(一般社団法人高梁スポーツクラブ主催)が開催されました。

現役選手とOGの試合、選手によるアトラクション、参加者とのミニサッカーゲームが行われ、選手との触れ合いを楽しんでいました。また、豚汁などの販売も行われ、会場は大いに盛り上がりました。

1月15日 高梁高校(内山下) 地元で働く「方谷先生」



仲田永造さんが高梁の医療を説明

市内で活躍する社会人を「方谷先生」として講師に迎え、自らの体験や地元で働く思い、生徒へのメッセージを伝える授業「Welcome 地元で働く方谷先生!」が開催されました。

生徒たちに市内に就職、定住、地域の発展に貢献してもらうことを目的として開催された授業は、教育・医療・環境など5分野(5教室)で行われ、生徒たちは真剣な表情で聴講していました。

協力隊がゆく ⑳

そのための一歩として、まのび堂(私の屋号)の商品第一号となる「大福茶」を作り直しました。「大福茶」とは、平安時代から伝わる縁起物で、年始めに一年の無病息災を願って飲むお祝いのお茶のことで、基本的には豆(まめ)まめしく働けますようにや昆布(よろこんぶ)、梅干し(松竹梅の梅)が入ったお茶で、それぞれのお茶屋さんで独自のブレンドがあるようです。そこで私は、高梁市宇治町の「備中宇治茶」の番茶をベースに、地元産の



商品第一号「大福茶」



「大福茶」の葉

こんにちは、西原千織です。昨年8月に地域おこし協力隊として、東京都から川上町に移住してきました。私は「日本茶インストラクター」や「ハーブコーディネーター」の資格を持っており、大好きなお茶を通じて高梁市を盛り上げていきたいと思っています。目標はお茶屋さん



西原千織 協力隊員

大豆黒・緑・白、もち麦、梅干し、香りづけの山椒のかわりに柚子と唐辛子をブレンドした、高梁産の大福茶を作りました。甘く香ばしい番茶の中に、お豆や梅干しなどの風味が混じり、そして後味がすかにピリツとした、なんとも癖になる味わいのお茶になったと思います。昨年12月からイベントなどで販売していますが、飲んでいただいた方にはなかなか好評のようですね、嬉しく思っています。

今後、本格的に地域の素材を生かしたお茶商品の開発に挑戦していきます。

2月4日 高梁市図書館(旭町) 高梁市図書館開館1周年



1周年を記念して開催されたイベント

高梁市図書館が開館1周年を迎えました。

開館1周年を記念して、当日は備中神楽「猿彦命舞」「大国主命舞」や、雷門喜助さん、笑福亭たまさんによる落語「断-HANASHI-」、また、「山田方谷に学ぶ現代の生き方」と題した皆木和義さんの講演会が行われ、多くの参加者が訪れました。

これからもさまざまなイベントを開催予定です。

1月20日 高梁市民体育館(落合町) 力をあわせて多く跳ぼう!



息を合わせてジャンプする児童

「第30回体力づくりなわとび大会」(高梁ライオンズクラブ主催)が開かれ、高梁市、新見市、吉備中央町の小学生が、日ごろの練習の成果を発揮しました。

8人1組で跳んだ回数を競う団体の部に35チームが出場。個人の部では430人が学年ごとに分け、連続して跳んだ時間を競いました。団体戦の優勝は、落合小の「チーム完全燃焼」でした。